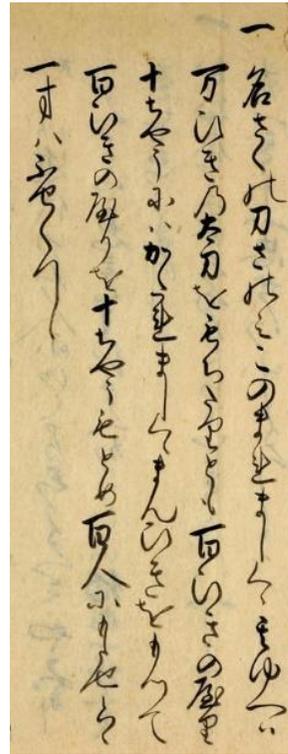
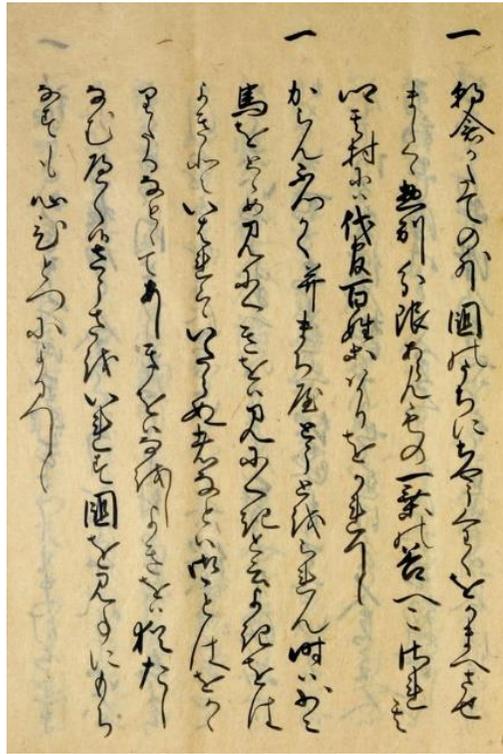


朝倉孝景条々～朝倉家の家訓～



年未詳「朝倉家之拾七ヶ条」 松平文庫（当館保管）[デジタルアーカイブへ](#)

翻刻文

【第四条】

一名さくの刀さのみ(好)のまれましく候、其ゆへハ
万ひきの太刀もちたりとも、百ひきのやり
(百) 十ちやうにハ (勝) かたれましく候、まんひきをもつて
百ひきのやりを (百) 十ちやうもとめ、百人にもたせ候ハ、
一方ハふせく(防)へく候。

【第十五条】

一 朝倉かたての外、国(城郭)のうちにちやうくわくをかまへさ
せましく候、惣別分限あらんもの一乗の谷(置)へこされ、
其郷其村にハ代官百姓等はかりを (置) かれへく候。

【第十六条】

一 一からん(伽藍 仏閣)ふつかく并まち屋(町屋等)とうとをられん時ハ、少々
馬をと、め見にくきをハ見にくきと云、よきをは
よきといはれ候ハ、いたらぬ者などハ御ことはをか、
りたるなど、あしき(悪)をハなをし、よきをハ猶たし
なむへく候、さうさ(造作)をいれす、国を見事にもち
なすも心ひとつによるへく候。

解説・福井とのかかわり

「朝倉孝景条々」は、越前の戦国大名・朝倉孝景の家訓であり、孝景晩年の1479年（文明11）～1481年（文明13）に成立したとされています。原本は消失してしまいましたが、後世に作成された写本がいくつか現存しています。

本資料は越前松平家に伝わった写本で、外題は「朝倉家之拾七ヶ条」となっています。前文によれば、「朝倉教景(あさくらのりかげ 宗滴、孝景の末子)が語ったことを思い出して記した」とありますが、いつ、誰が写したもののなのかはよくわかりません。

現代語訳

【第四条】

名刀をむやみに購入してはならない。なぜなら一人に一万疋(ひき)の値段の太刀を持たせたとしても、百疋の値段の(やり)鍔を持った百人にはかなうはずがないからだ。百疋の鍔を百挺購入して百人に持たせると、一方面は防ぐことができるにちがいない。

【第十五条】

朝倉の館(やかた)以外に国内に城郭を造らせてはならない。所領をもつ有力家臣はみな、一乗谷に引越し、郷村には代官や百姓だけを置くこと。

【第十六条】

寺院(がらん)の伽藍や町屋を巡検する時は、少し馬を止めて、見苦しいものは見苦しいと言い、良いものは良いと言え、下々の者などは「御言葉をいただいた」といって悪い点を直し、良い点はさらに励むであろう。出費をしないで、国を見事に処置するのも国主の心一つによるものである。

資料の注目ポイント

【第四条】からは、実利と数量を重んずる孝景の合理的な考えが読み取れます。鍔を例に挙げているのは、当時の歩兵の主要な武器が弓と鍔であったためと思われます。

【第十五条】は家臣団の城下集住を定めたものです。その趣旨は防衛力の向上と家臣の反乱防止にあるとして、江戸幕府が制定した一国一城令(せんく)の先駆と評価されてきました。しかし近年では、常に修築が必要な中世城郭を維持していくむだを排し、財政負担を軽減させるねらいもあったとされています。

【第十六条】は都市の巡検の際、国主としての心構えを定めたものです。第四条や第十五条と同じく、考え方の底流(ていりゅう)にはぜいたくやむだを禁止する合理性がうかがえます。

関連資料、展示等

名称	概要	備考
「朝倉家之拾七ヶ条」	松平文庫（当館保管） 資料番号 A0143-00483	デジタルアーカイブ福井で閲覧可能。 https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=011-320826-1-p1
松平文庫テーマ展 「ゲームとつながる福井の歴史 Season3 －朝倉氏と一乗谷城－」 令和4年10月28日（金）～12月21日（水）	「朝倉家之拾七ヶ条」を展示。	当館WEBで公開中。 https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/fukui/08/2022exhb/202210m/20221028m.html#tenji
福井県文書館企画展示 「残された遺言－最期に何を伝えたかったか？－」 平成28年8月26日（金）～10月26日（水）	「朝倉家之拾七ヶ条」を展示。	当館WEBで公開中。 https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/fukui/08/2016exhb/2016exhb/2016exhb00.html
福井県文書館月替展示 「載ってる。出てる。－文書館資料出張編－」 平成27年12月25日（金）～28年1月20日（水）	「朝倉家之拾七ヶ条」を展示。	当館WEBで公開中。 https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/fukui/08/m-exhbt/201601AM/201601.html

参考文献等

- ・『国史大辞典 1』（吉川弘文館、1979年）
- ・『福井市史 資料編 2』（福井市、1989年）
- ・『朝倉氏の家訓』（福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館、2008年）
- ・佐藤圭『朝倉孝景－戦国大名朝倉氏の礎を築いた猛将－』（戎光祥出版、2014年）